

## 検査データの読み方

### －臨床検査の総論的な読み方(その28)－

「臨床検査の総論的な読み方」について述べています。「検査データからの鑑別の挙げかた」として5段階の考え方を示し、これまでにアルブミン・尿素・クレアチニン・尿酸・血糖・HbA1c・アンモニア・ビリルビン・甲状腺ホルモン・CKとその他の心筋マーカー、「肝疾患に対する検査」を取り上げてきました。

今回からは「腎疾患に対する検査」について述べます。尿素とクレアチニンに関しては、既に2022年4月に5段階の考え方と共に取り上げていますので、今回は視点を変えて、腎臓の機能という観点から見ていくことにしましょう。

腎臓の重要な機能は言うまでもなく尿を作ること、つまり（なるべく）不要な物質は体外に排出させ、その一方で必要な物質は体内に留めておくことです。そのための条件として、腎臓のフィルター機能が万全であること、腎血流量が適正に保たれていることが必要です。もう少し詳しく言うと、腎臓のフィルター機能には糸球体での濾過と尿細管での再吸収の2つの要素があります。腎血流量に関しても実際の糸球体濾過量(GFR)と、それを維持するための血圧調節の2つの要素があります。また腎血流量そのものではありませんが、それに関連するものとして、水分や電解質濃度をコントロールする機能も有します。

以上をまとめて検査項目と関連付けると、以下の如くになります。

腎臓のフィルター機能に関連する検査：尿蛋白、血尿、円柱など

腎血流量に関連する検査：レニン－アンジオテンシン－アルドステロン系など

上記の双方に関連する検査：尿素、クレアチニン、クレアチニンクリアランスなど

その他：カルシウム代謝に関する検査など

これらの検査項目を分野別に見ますと、一般検査（尿検査）、ホルモン検査、生化学検査、複合的な検査など多岐に渡ります。一見すると単純にも思いがちな腎機能ですが、言わば「体内と体外への架け橋」とでも言うべき臓器であり、その様々な機能を調べるために色々な検査が行われていることが解ると思います。

次回からは、それぞれの検査に関して具体的に述べていきます。

内容に関するお問い合わせ・記事にして欲しい検査のご要望などはこちらへ

☎ 0263-32-8042    ✉ kensa@matsu-med.or.jp

松本市医師会検査健診センター    担当 五味

